

## 2018 年 3～5 月の桜島噴出物構成粒子の特徴

2018 年 3 月中旬から 5 月中旬までの噴出物にはガラス光沢を呈し透明度が高い粒子が含まれることから、マグマの上昇と噴出が継続していると考えられる。

2018 年 3 月 21 日および 5 月 15 日から 5 月 17 日までの桜島南岳山頂火口からの噴出物構成粒子（合計 4 試料）を水洗・篩い分けし、実体顕微鏡で観察した。この期間中、南岳山頂火口では噴火や爆発的噴火が断続的に発生していた。

今回観察した 3 月中旬から 5 月中旬までの南岳山頂火口噴出物は、緻密で結晶度の高い粒子（B）が約 6～7 割、ガラス光沢を呈し透明度が高い粒子（G）およびその発泡度が比較的高い粒子（Gv）が多くて 1 割程度、その他の粒子として、結晶片や既存の山体を構成する岩片から構成される。これはこれまで観察した 2017 年 3 月下旬から 2018 年 1 月上旬までの昭和火口および南岳山頂火口の噴出物とも大局的に同様である。今回観察したいずれの噴出物試料にも、結晶度が低く透明度が高い粒子（G および Gv 粒子）が含まれることから、マグマの上昇と噴出が継続していると考えられる。

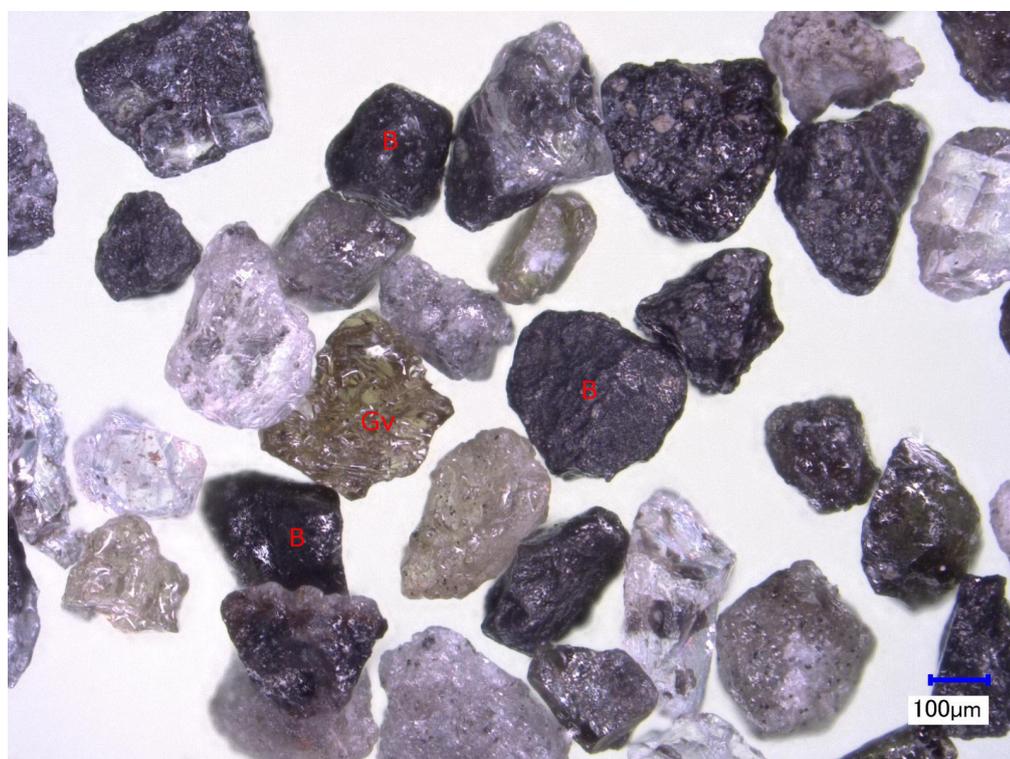


図 1. 2018 年 3 月 21 日噴出物（125～250  $\mu\text{m}$ ）。B：緻密で結晶度の高い粒子。Gv：発泡度が高くガラス光沢を呈し透明度が高い粒子。

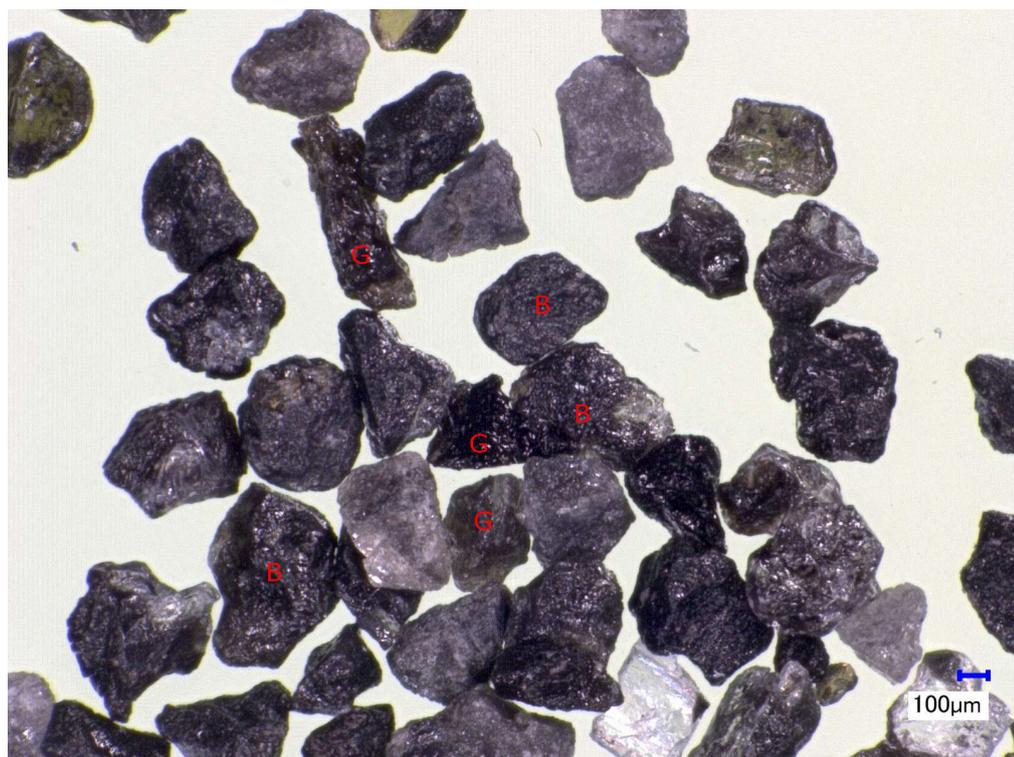


図 2. 2018 年 5 月 15 日 16 時 00 分～5 月 16 日 8 時 10 分噴出物 (250～500 μm). B : 緻密で結晶度の高い粒子. G : ガラス光沢を呈し透明度が高い粒子.



図 3. 2018 年 5 月 16 日 17 時 00 分噴出物 (250～500 μm). B : 緻密で結晶度の高い粒子. G : ガラス光沢を呈し透明度が高い粒子. Gv : 発泡度が高くガラス光沢を呈し透明度が高い粒子.